

くまもとけんじんけん しゅうかい 熊本県人権子ども集会

12月6日(水)に各学級でオンデマンドによる配信を視聴しました。この集会は熊本県教育委員会主催、熊本県PTA連合会・熊本県公立高等学校PTA連合会・熊本県特別支援学校PTA連合会共催で毎年行われており、「『熊本県人権教育・啓発基本計画』の趣旨を踏まえ、全ての人々の人権意識の高揚を図るとともに、部落差別をはじめあらゆる差別をなくし、人権が共存する人権尊重社会の実現を目指す」ことを目的として、子どもたち主体で計画実行している集会です。

新型コロナウイルス感染症流行以前はパークドーム等に熊本県下から集まって対面形式で行っていましたが、最近では感染症拡大防止の観点から、1つの場所に集まらずオンデマンド配信や分散の形態で行われています。

全部で55分程度の動画配信ですが、生徒の皆さんと視聴したのはオープニングから合志市立合志楓の森小学校・中学校の体験・活動報告まででした。オープニングで紹介のあった2022年度の人権メッセージを紹介します。これは「子ども実行委員会」が中心となり、考えられたものです。裏面には2023年度の人権メッセージを載せています。



こえをかけるとたのしくなる。こえをかけるとうれしくなる。おもしろいことをいたり、たのしいことしたら、こころがあたたくくなる。おともだちになりたいというきもちになる。「ねえねえ、おともだちになろう。」

友だちとわたしは、とく意なことがぜんぜんちがいます。だけど、助け合っています。とく意なことやにがてなことはちがうけど、おたがい助け合っています。これからも助け合っていきたいです。みんなが一人一人のことをみとめあつていきましょう。

元気がない時、友達や家族の一言で前を向くことができる。勇気をもらえる。優しい声が心に残る。重かった気持ちが軽くなる。一言で傷つく言葉もあるけど、助けになる言葉もある。相手の気持ちを考え、言葉を発していきたい。

ひらがな表記・漢字表記か?どんなメッセージにするか等工夫が伝わってきます。

せいとukaiyonyakuninmeishi 生徒会四役任命式

12月7日(木)に生徒会四役任命式を行いました。四役とは生徒会長(1人)、副会長(2人)、書記(2人)、総務(1人)のことです。現在の3年生から2年生に引き継がれました。挨拶を1人ずつ行いましたが、緊張の中にも意気込みが伝わってきました。一部を紹介いたします。

- ・しっかり考えて、行動にうつし、先輩方が築きあげた三中をもっと発展させる。
- ・1人の力では成し遂げられないことを皆と協力して成し遂げる。
- ・選んでいただいたことに感謝し、公約を実現させる。

上記の「人権子ども集会子ども実行委員」の人たちと重なる考えや意欲があります。頼もしいです。先生たちも皆さんと一緒に頑張ります。





ぶらくさべつ
部落差別をはじめあらゆる差別をなくす
くまもとけんじんけん こ しゅうかい
熊本県人権子ども集会メッセージ



熊本県人権子ども集会メッセージは、全ての人々の人権意識を高めるとともに、部落差別をはじめあらゆる差別をなくし、人権を大切にできる社会を目指すために作りました。

集会のテーマである、「人～知る、知ってもらおう、考える、行動する～」の意味を考えてみましょう。

差別は、自分たちが気づいていないだけで、皆さんのすぐ近くで起きているのかもしれませんが。普段私たちが当たり前のようにやっていることは、人によっては傷つくことかもしれません。相手は冗談と思って言ったのかもしれないけれど、言われた言葉に傷つけられた。間違っただけで情報が流れて悪者のようにされた。そんな経験はありませんか。言いたいことが言えないことはありませんか。本当は「嫌だ」と言いたいけれどみんなに嫌われたくないから言えない、周りを気にして言うことをあきらめたことはありませんか。小さなことが差別やいじめにつながってしまうということもあります。

では、あらゆる差別をなくすためにはどうしたらいいと思いますか。そのことを考えて、私たち子ども実行委員は、集会のテーマを考えました。

人は一人じゃなくて、二人、三人と、人とのつながりができていると思います。知ろう、自分のことを、相手のことを。自分自身を知るためには振り返ろう。相手のことを知るためには、自分から話しかけてみよう。そうすれば、お互いの本当の気持ちを知ることができるはずです。

知ってもらおう、自分自身のことを。自分のことを知ってもらおうためには、自分自身の気持ちをどのような形でいいから自分らしく伝えよう。

考えよう、自分自身のことを、相手のことを。お互いの立場や本当の気持ちが理解できていれば、よりよく考えることができるでしょう。でも考えるだけではダメです。

行動しよう。学び続けること、体験したことを聞くこと、発表すること、話し合いをすること、相談をすることなど、行動につなげよう。

人は一人一人とつながって一つの輪になっています。「知る、知ってもらおう、考える、行動する」ことを通じて仲間をつくっていきましょう。そして、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくし、人権を大切にできる社会を作っていきましょう。



令和5年度(2023年度)熊本県人権子ども集会子ども実行委員一同

表に書いた2022年度の人権メッセージも上記の2023年度の人権メッセージも「子ども実行委員会」が中心となり、考えられたものです。私が前の学校で出会った生徒が3人いてびっくりしました。1年間の成長に心を打たれました。こんな素敵なメッセージを子どもたちは発信できます。

子どもの力を信じてこれからも、保護者、地域の皆様、学校で協力していじめや差別を許さない「好きです三中」を響かせたいと思いました。